

【佳作】

シーサイド・ラプソディ

コメント

海には、言葉では言い表せないほど多くの想いが宿っていると私は考えます。穏やかな日差しの下で見る海は懐かしさや慕情を思い起こさせ、夕暮れに染まる海は誰かを想う恋心や、時には失意や孤独といった切ない感情を思い起こします。海はそのすべてを拒むことなく、静かに受け止めてくれる存在のように感じます。私自身も、心がどうしようもなく苦しい時には、波の音に耳をすませ、寄せては返すそのリズムに身をゆだねてみると、不思議と心が落ち着き、少しずつ前を向く力が戻ってくるように感じます。そうした体験から、この曲では海の持つ優しさと包容力を音で表現しました。どんな気持ちの時にも海が静かに受け止めてくれるように、演奏はあえてウクレレ一本で行っています。弦を弾く音や余韻の響き、指先の小さな動きまでも聴く人に届くよう心を込めました。波が寄せるように、音がそっと心に触れる瞬間を感じ取ってもらえたら嬉しいのです。



経営学部 国際経営学科3年 針生和弥